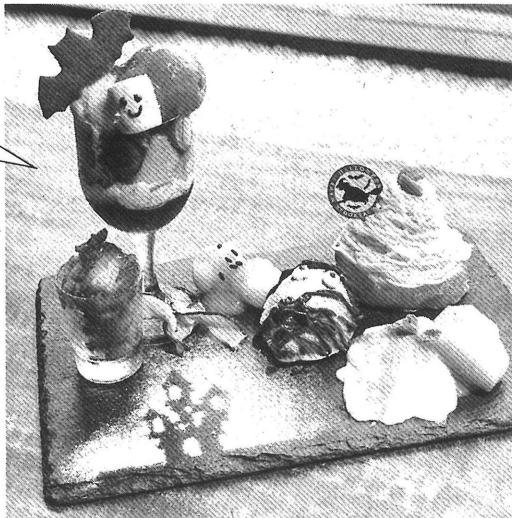


若い人に県産柿を

帝塚山大と「なら和み館」協力

県産柿が使用されたオリジナルメニュー「ミニバフェ」と5種類の
スイーツ盛り」(なら和み館提供)



映える 料理開発

県特産の柿を若い人に食べてほしい。帝塚山大学（奈良市、蓮花一郎学長）は、奈良市の「なら和み館」

と協力し、同大の学生が考案した「インスタ映え」する商品として注目されている。

県特産の柿の消費拡大への貢献とともに、「インスタ映え」する商品として注目されている。

指す学生5人は、県特産品の柿が収穫されて3分の1程度が廃棄されている状況を知った。柿の消費量が減少傾向で、背景に若者の柿離れがあるという。